

祝 古河駐屯地創立 62 周年記念行事 第 1 施設団創隊 55 周年



古河駐屯地及び第一施設団（第一施設団長兼古河駐屯地司令 平栗陸将補）は、五月二十九日「古河駐屯地創立六十二周年・第一施設団創隊五十五周年記念行事」を挙げた。当日は、天候にも恵まれ、多数のご来賓及び地域の方々約四千六百名が駐屯地を訪れた。

式典においては、観閲部隊指揮官 寺西一佐の指揮の下、観閲部隊二百八十七名が参加し、整列する中、衆議院議員 永岡桂子様をはじめ、国会議員・県議会議員・各市町の首長・各機関代表・駐屯地協力団体等のご臨席を賜り、大観衆の見守る中、整齐と実施した。

観閲行進では、車両八十二両が参加し、各部隊の指揮官を先頭に主要装備品が堂々の行進を披露した。また、車両装備品紹介・駐屯地が災害派遣等を担任する各市町旗の紹介も行った。

式典終了後、空挺降下・防衛大学校ドリル・油圧ショベルによる書道・訓練展示等のアトラクションを行い、観衆の目を楽しませた。特に訓練展示では、一〇式戦車等各種装備の紹介や、格闘訓練の迫力ある展示をし、来場者が驚きと興奮を隠せない様子だった。また、油圧ショベルによる書道では、緊張感漂うなか、観客が固唾を呑んで見守り、完成と同時に感嘆と拍手がおこった。

ちびっこ広場や売店等は絶えず来場者で賑わい、大盛況であった。

昼からは、体育館において祝賀会食が行われ、駐屯地協力者等が多数参加する中で隊員を交え親睦を深める事ができ、盛会のうちに終了した。



観閲行進



式典



観閲部隊



執行者(平栗陸将補)



空挺降下



油圧書道



訓練展示



祝賀会食



音楽演奏



防衛大学校ドリル



装備品展示



ちびっこ広場

熊本地震災害派遣



給水支援



簡易トイレメントの梱包・積載



補給品（飲料）積載



作戦会議



古河駐屯地後援会等からの
激励品（缶コーヒー等）



茨城県隊友会からの激励品
（栄養ドリンク等）



行方不明者の捜索



道路啓開作業

古河駐屯地各部隊等は、熊本地震災害に伴い平成二十八年四月十六日から三十日の間、熊本市に対して、災害派遣活動を実施した。

各部隊等は、補給品（飲料・簡易トイレ等）や機材等（グラップル）の積載・長距離移動に備えての車両点検を整齐と実施した。

派遣部隊である、東部方面施設派遣隊に編成された、第三〇一ダンプ車両中隊・第一〇一施設器材隊・第一〇二施設直支隊大隊・第一二七警務隊総勢三十人、第二高射特科群に編成された、第三三七高射中隊・第三〇一高射直接支援中隊総員二十六名の隊員は、被災地に二日をかけて移動した。

現地では、情報収集、関係機関との調整及び道路偵察等を行ったのち、危険と隣り合わせの危険な状況の中、阿蘇市及び南小国町で人力・機械力を駆使した道路啓開作業（東部方面施設派遣隊）や大規模な土砂崩れが発生した南阿蘇村で危険を顧みず、昼夜かたずの行方不明者の捜索・給水支援・倒壊した家屋の撤去作業（第二高射特科群）にあたったのち、帰隊した。



体力測定



連結訓練



行進



基本教練

古河駐屯地各部隊等は、三月二十二日から五月十三日まで、計二百六名の企業生活体験を実施した。

企業生活体験では、企業の要望である、規律心・団結心の向上に重点をおき、基本教練や格闘訓練・連結訓練・行進・重材料運搬・体力測定等の体験を支援した。また、自衛隊の任務等も説明し、多岐にわたる活動などについて認識を深めていった。

着隊した参加者は、緊張した面持ちであったが、時間が経つにつれて積極的に質問をしたり、返事も大きくなっていき、緊張感は無くなっていった。

終了した参加者は、「基本教練などで、人を指揮する事が大変だと分かった。」「集団生活が楽しく過ごせた。」「色々な事を体験して勉強になった。」「等感想を述べた。

三日間という短い期間ではあったが、内容の濃い体験と同期の絆を深め、参加者は駐屯地を後にした。

企業隊内生活体験

定年退官者（予定）の紹介



団本 青木 1尉
10月7日付



支処 白石 曹長
10月6日付



器材 原田 曹長
8月27日付

関東補給処古河支処



基本教練



重材料運搬

五月十一日から十三日の間、積水ハウス株式会社五十二名に対する生活体験を支援し、自衛隊に対する理解と親近感の醸成に寄与するとともに、支処隊員の指揮及び指導能力の向上を図つた。

参加者は教官・助教の指導の下、慣れない半長靴や日課時限等に四苦八苦しながらも、基本教練、重材料運搬、徒步行進(十km)等の課目を全てやり遂げ、有意義で充実した生活体験となった。

隊内生活体験支援



古河支処参列部隊

六月五日、霞ヶ浦駐屯地において関東補給処創立十八周年記念行事が挙行された。

支処は古河支処長以下四十一名をもって記念式典に参列し、多数の来賓・来場者を前に、関東補給処の一翼を担う支処の威容を存分に発揮して式典の成功に寄与した。

関東処 創立記念行事



受領部品の確認

五月九日から十七日の間、春季東・北富士演習場定期整備を支援した。

期間中、部隊からの要求に基づき、計四回の部品輸送等を適時に行い、演習場整備器材の可動率向上に貢献した。

演習場 定期整備支援

古河駐屯地業務隊

戦技等に直結する体力検定



重量物の卸下の運搬



跳壕



短距離疾走

六月二十二日及び二十四日に、戦技等に直結する体力検定を実施し、受検者は見事全員合格することが出来た。

熊本地震に伴う各種支援



派遣部隊通過支援準備 (体育館)



糧食の交付

四月十六日から熊本地震における駐屯地からの派遣部隊に対し、非常用糧食・燃料の払い出し等の支援を実施し、派遣部隊の整齊円滑な派遣に寄与するとともに駐屯部隊の非常勤務隊員に対する給食支援(二四時間開設)を実施した。また他方面隊災害派遣部隊に対する通過支援のため、体育館・外来宿舍等を準備し、臨機の支援要請に備えた。



床面油液吸収剤を散布しての対処訓練

四月二十五日、油流失対処訓練を燃料庫地区において実施した。

燃料庫野積場のドラム缶からの軽油が漏出したとの想定で、主に補給科と営繕班が対処用資材を実際に展開して、油流失に対処する手順等を演練し、即応態勢向上と設備管理要領向上の一助とすることが出来た。

油流出対処訓練



第101施設器材隊



壮絶なゴール後



スタートの瞬間「一歩でも速く！」



ラスト1km!!



1km通過!

六月一日から三日に、平成二十八年器材隊持続走競技会を実施した。

昨年度は、特殊器材中隊が三枚の優秀看板を奪取し見事完全優勝を果たし戦技総合優秀中隊の称号を手に入れた。今年度の戦技競技会では、各中(付)隊ともに戦技総合優秀中隊である特殊器材中隊からの各種目の看板を奪取すべく激戦が予想され、中隊の名誉をかけて隊員全員が健闘した。

今回の持続走については特殊器材中隊が持続走優勝となり看板を死守した。

平成二十八年度 隊戦技競技会(持続走)

第301ダンプ車両中隊



式典恒例のダンプアップ



ヘリから降下するレンジャー隊員

五月二十九日、古河駐屯地において、古河駐屯地創立六十二年周年及び第一施設団創隊五十五年記念行事に参加した。多くの来賓及び地域の方々に、自衛隊の威容を示し、真姿を現し、駐屯地に対する理解と信頼を高めた。

また、中隊長以下十四名、支援部隊四十名を含め、総勢五十四名で訓練展示を実施し、支援部隊及び中隊の隊員相互に連携し、士気を高め、団結の強化を図り、記念行事の成功に寄与する事が出来た。

第102施設直接支援大隊



グレーダブレーキバルブインナーキット交換



駐屯地司令による入魂式

五月十日から十七日まで、第一施設団が担任する春季東・北富士演習場定期整備に参加して、野整備支援を実施した。

この際、演習場定期整備を部隊練成の場として活用し、野整備能力及び整備技術の向上を図った。十二日には、後方支援隊長の現地視察を受けた。第一線部隊の展開地域で活躍する隊員への激励を受け、初日に受けた強い風被害により疲労していた隊員の士気が高揚した。

五月十日から十七日までの間、古河駐屯地創立六十二年記念行事に先立ち、駐屯地広報展示用七四式戦車の塗装を実施した。

広報展示用車両の塗装は、平成二十六年より毎年一両ずつ実施しており今年度で三両全てが完了した。

320基地通信中隊 古河派遣隊



巡視風景(鉄塔付近にて) 中隊長、最前任、派遣隊長

四月十三日、第二十代中隊長久々江一尉による初度視察が実施された。

状況報告、表敬訪問、施設巡視全隊員との懇談等を実施し、古河派遣隊の特性や現状を確認していた。

中隊長要望事項「融和団結」を実現すべく、新たな決意で新年度を迎えた。



測定器試験

六月二十日、派遣隊は、平成二十八年度移動局検査及び大隊補給整備指導を受検した。

移動局検査では、各種無線機の測定や計測器の検査が実施された。

また、補給整備指導においては通信器材・施設の実視及び書類等の点検が実施され、それぞれ合規適正に運用されていることが確認された。

第337高射中隊



搜索活動



記念撮影

五月二十九日、中隊は駐屯地創立六十二年記念行事に併せて、中隊の創隊七周年記念懇親会を実施した。

懇親会には、OB及び第二高射特科群長の参加を得て、中隊隊員との懇親を図り、相互の親睦をより深めることができた。

今後ともこのような場を大切にし、中隊の更なる発展を図りたい。

四月十六日から三十日までの間、第二高射特科群は、熊本県で発生した地震により、災害派遣活動を実施した。

第三三七高射中隊においては、南阿蘇村での行方不明者の搜索及び阿蘇市での給水活動、倒壊した家屋の撤去等を実施し、災害派遣任務を完遂した。

新隊員教育隊



宣言



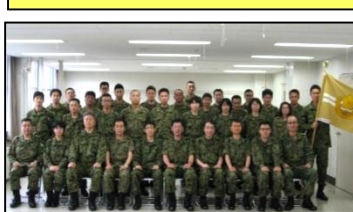
教育隊旗授与

七月四日、新隊員教育隊は体育館において、平成二十八年新隊員教育課程(後期)入隊式を実施した。

前期教育を終了し、精悍な顔つきとなった四十八名の隊員達が、きびきびとした動作で執行者の第三〇七施設隊長は、教育隊長を望み、「一人一人が工夫と努力をもって、施設科技術を体得すべく、教育に励んでほしい。」と祝辞を述べた。

その後、祝賀会食が行われ、代表者挨拶では、「施設技術を学び、同期との絆を大切に頑張っていきたい。」と教育の抱負を述べた。

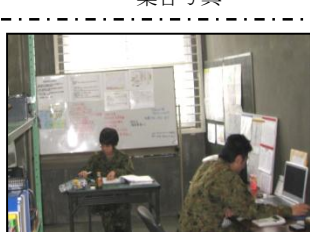
第341会計隊



集合写真

六月十三日から十四日の二日間にわたり、東部方面会計隊副隊長による隊務視察及び情報管理検査が実施された。

古河駐屯地隊本部と霞ヶ浦駐屯地派遣隊を二日間にわたり視察・検査し、異常なく終了した。



会計同行支援班

五月九日から十八日までの間、定期演習場整備会計同行支援班として、川端一尉(霞ヶ浦派遣隊)川邊二曹、山崎一士が参加し、整備隊に必要な借上器材に係わる調整、糧食品現地調達及び緊急調達等を実施した。

第一施設団長より、優秀隊員として川邊二曹が表彰を受けた。